

第5回「明日の西湘海岸を考える懇談会」 議事要旨

- 開催日時 令和2年1月23日（木） 15時30分～17時00分
- 開催場所 大磯町 郷土資料館
- 出席委員（敬省略、代理出席を含む）
 - 【座長】 宇多 高明 日本大学客員教授
 - 佐藤 慎司 高知工科大学教授
 - 川辺 みどり 東京海洋大学学術研究院
 - 武井 正 （公財）相模湾水産振興事業団代表理事
 - 高橋 征人 小田原市漁業協同組合代表理事組合長
 - 加藤 孝 大磯二宮漁業協同組合代表理事組合長
 - 徳江 好春 大磯二宮漁業協同組合副組合長
 - 西ヶ谷 修司 大磯町区長連絡協議会会長
 - 蒲原 辰弘 大磯海の会議代表
 - 橘川 順一 二宮町地区長連絡協議会代表
 - 田邊 邦良 二宮町観光協会会長
 - 小又 寛 二宮海岸に砂浜を戻す会代表
 - 加藤 史訓 国土交通省国土技術政策総合研究所海岸研究室長
 - 秋山 正人 国土交通省関東地方整備局低潮線保全官
 - 加部 裕彦 小田原市副市長（代理出席：山田正人建設部管理監）
 - 栗原 匡賢 大磯町副町長
 - 府川 陽一 二宮町副町長
 - 千葉 淳 神奈川県砂防海岸課長
 - 荒井 俊晴 神奈川県県西土木事務所 小田原土木センター所長
 - 相原 久彦 神奈川県平塚土木事務所長
 - 澁谷 慎一 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所長

○ 議事

1. 開会あいさつ
2. 「明日の西湘海岸を考える懇談会」規約改定について
3. 委員紹介
4. 議題
 - (1) 直轄西湘海岸保全対策事業の概要について
 - (2) 神奈川県による海岸保全対策事業の概要について
 - (3) 小田原市より情報提供
 - (4) 意見交換
5. 閉会

・配布資料

- ・ 第5回「明日の西湘海岸を考える懇談会」次第
- ・ 第5回「明日の西湘海岸を考える懇談会」委員出席者名簿
- ・ 第5回「明日の西湘海岸を考える懇談会」配席図
- ・ 「明日の西湘海岸を考える懇談会」規約 改定（案）
- ・ 「明日の西湘海岸を考える懇談会」傍聴規定
- ・ 第5回「明日の西湘海岸を考える懇談会」 京浜河川事務所資料
- ・ 神奈川県の海岸保全対策事業の概要 神奈川県資料
- ・ 台風19号による小田原市内沿岸部の被災状況について（前川海岸～酒匂海岸区間）
小田原市資料
- ・ 西湘海岸のパンフレット

○ 議事要旨

(1) 直轄西湘海岸保全対策事業の概要について

【直轄西湘海岸保全施設整備事業の概要について】

- ・2019年台風第19号のタイムラプス画像から把握できた最大の遡上高さは、どの程度か。
- ・(事務局) 解析後に報告する。

解析結果より、白波到達高さは現地盤から4.7m打ち上がっております。

(京浜河川事務所説明資料 参照)

【養浜について】

- ・岩盤型潜水突堤と養浜のタイミングはどのように考えているのか？施設整備後に養浜するのか、施設整備と合わせて養浜も実施していくのか。
- ・(事務局) 岩盤型潜水型突堤が1基完成した段階から、養浜を進めていき、モニタリングしながらその効果を確認する予定である。

【岩盤型潜水突堤について】

- ・沖の海底勾配が深くなっているが、岩盤型潜水突堤の効果は期待できるのか。
- ・(事務局) 礫質の砂であれば、岩盤型潜水突堤の効果が発揮されると考えている。
- ・岩盤型潜水突堤の整備と養浜を進めつつ、モニタリングをして、その効果を確認しながら事業を進めることが重要である。

(2) 神奈川県による海岸保全対策事業の概要について

【養浜について】

- ・二宮海岸と大磯海岸の掘削土砂は、酒匂川のどこから浚渫しているのか。
- ・(事務局) 飯泉取水堰の上流の河道掘削土砂を用いている。掘削場所は毎年変わり、協議会で決定している。
- ・西湘海岸は酒匂川の土砂を養浜しているのに対し、茅ヶ崎海岸は相模川の土砂を養浜しているのはなぜか。
- ・(事務局) その海岸が形成された土砂供給源の土砂を用いているため、茅ヶ崎海岸は相模川の流域、西湘海岸は酒匂川から持ってきている。

【養浜について（つづき）】

- ・沖の砂を掘削して岸に養浜（リサイクル）する方法がインドネシア等で実施されていると聞いたが、西湘海岸でも同様の方法をできないのか。
- ・インドネシアの例では、サンゴ礁のかけらで形成された海岸のため、沖合の砂（サンゴ礁のかけら）を使用できる。西湘海岸等は、そのような状況にはないため、川から養浜土砂を運搬する必要があり、その費用が高い。

（3）小田原市より情報提供

【小田原での 2019 年台風第 19 号の被害について】

- ・小田原では堤防を 1.5m かさ上げしたが、2019 年台風第 19 号で再度被災が生じた。全国同一の基準ではなく、想定よりも大きな波浪に対して防護できる施設を整備してほしい。また、養浜方法の変更やコンクリートブロックなどの施設を設置するなどの方法も検討してほしい。

（4）意見交換

【2019 年台風第 19 号の外力・地形変化について】

- ・大磯の照ヶ崎では、2019 年台風第 19 号で地盤高が 3m 程度下がった。波打ち際は少し戻ってきたが、まだ台風前の状態まで戻っていない。
- ・一晩で 3m も地盤高が低下するような非常に厳しい海岸条件にある。3m も低下すると護岸の安定性が低下する。
- ・侵食により浜が狭くなってきているので、波が強くなっていると感じるかもしれない。また、2019 年台風第 19 号は、既往最高潮位よりも 50cm 高くなっており、非常に厳しい条件だった。

以上